

消えた集落

閉村の碑からよみとくもうひとつの理由

こつなぎ
松代の小貫集落



十日町市にかつてあった2つの「小貫」という集落を対象としています。ひとつは旧松代町にあり、もう一つは信濃川の対岸にある旧中条の飛渡にありました。

「小貫(こつなぎ)」という地名には、大道と小道、集落と集落を繋ぐ交通路の要や峠から降りた地点という意味があり、交通の一段休みの場所に立地した集落と考えられます。

2ヶ所とも平成4年と平成19年に閉村となっており、それぞれ400年、800年の在住の“証し”が「碑文」などとして遺されています。

それぞれの集落は数百年の長きにわたって、地域の自然環境に適応しつつ、農業や暮らしを創意工夫し、それぞれの集落の歴史・文化を築いてきました。また、こうした各地区独自の農業や暮らしの多様性が、地域全体の生態系を支えるとともに、自然災害や社会環境の変化への適応力を高めてきました。

昭和時代の国策である戦後所得倍増論に共鳴され村を離れる人後断たずとあり、また、平成時代の市町村の大合併による各地区の共同施設等の統廃合が進むなど地域コミュニティが崩壊し農業生産性が衰退し集落として立ち行かなくなった理由なども「閉村の碑」の碑文や土地利用の跡などに垣間見ることができます。

こうした中、近年、種苗の知的財産権の保護を目的に「種苗法」が改正され、が各地域の農家が伝統的に維持してきた独自の「自家増殖」が制限されるなど、農業の多様性の維持が困難になることが懸念されています。産業や経済のグローバル化が進み、気候変動問題が顕在化する今日、地域農業のかつての多様性が持続可能な発展に寄与してきた役割をもう一度見つめ直していくことが大切です。

消えた集落

閉村の碑からよみとくもうひとつの理由

旧松代町の小貫という集落名には、小さな集落を峠道などが集落の中心にあって2分するように尾根を境にして集落が点在して寄り添ってなりたっていた名残であると考えられています。

尾根生活道路の中心とする集落は、地形条件からそう呼ばれてきたようです。

斜面地が多いということは耕作地が限定されます。坂地が多いこうした地辻り跡地形では灌漑用水路が複雑となり、労働条件が過酷になり、耕作が制限されます。耕作の限定は当然、集落の経済、流通、商圈、交通、交流にも影響がでてきます。

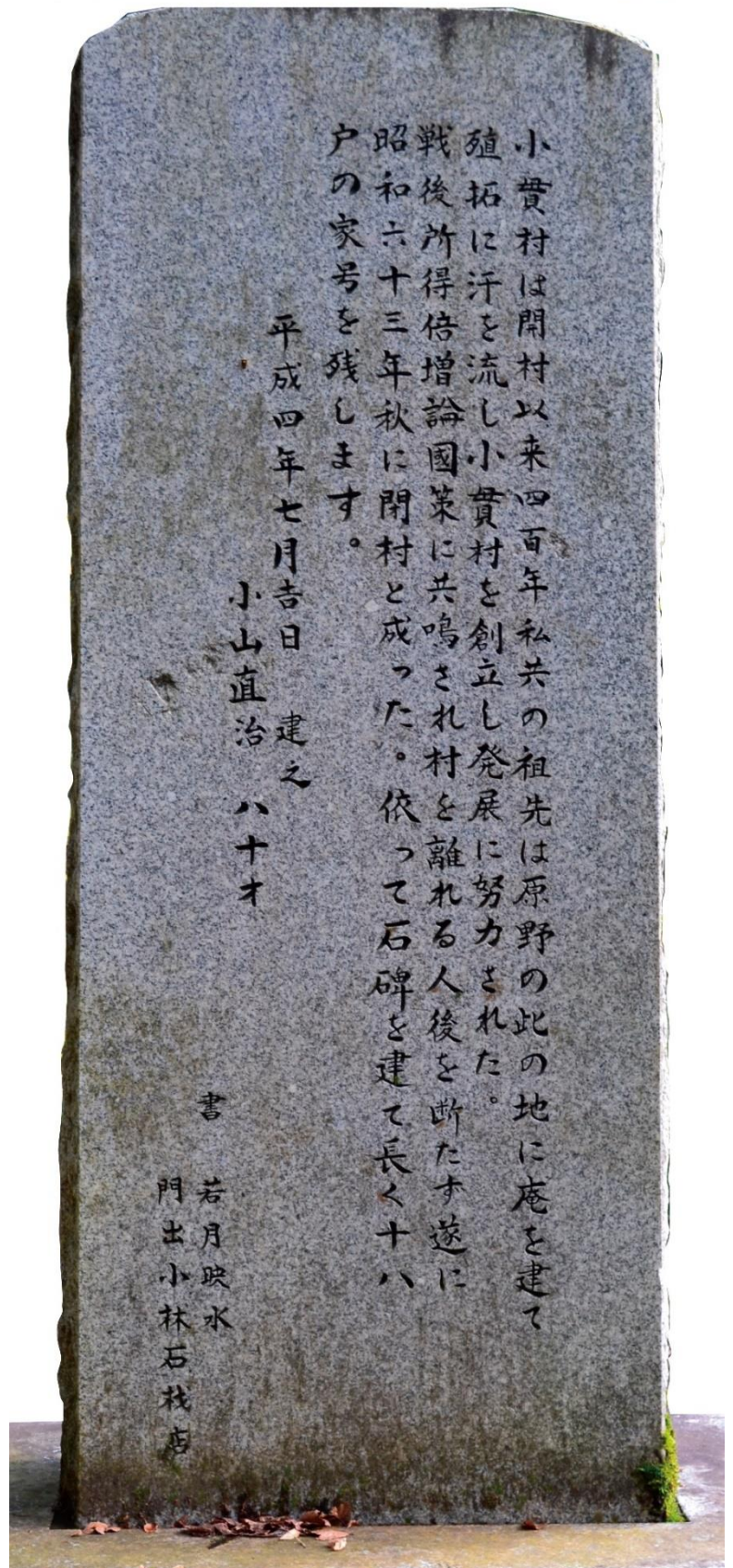
さらに、国道 353 沿いにあった、かつての集落間の村道が隣町の柏崎市方面に延びており商圈が北西の海側に向かっていたことが明らかになっています。

国道 353 号沿いに「閉村の碑」があります。かつての村道、現国道353号は尾根筋に沿っており、かつての集落もここを目安に他集落とつながっていました。

気象条件の特徴としては冬の季節風の影響が挙げられます。集落の尾根付近では冬時期の北西季節風の影響が著しく積雪にもなって集落の耕作、交易といった日常生活が制約されることが考えられます。

国道 353 号沿いの「閉村の碑」がある位置を中心に、かつての小貫集落があったと推定されます。この集落の家々の配置図が残されています。坂地に点在する家々の位置関係がよくわかります。

家の間にはわずかな平地を利用した圃場があり、そこで農耕馬による耕作、は行列、馬耕、田打ちなどの様子が昭和 35 年～36 年の映像として残されています。そこには前述の坂地形、狭小な圃場の跡地、溜池跡がみとれます。



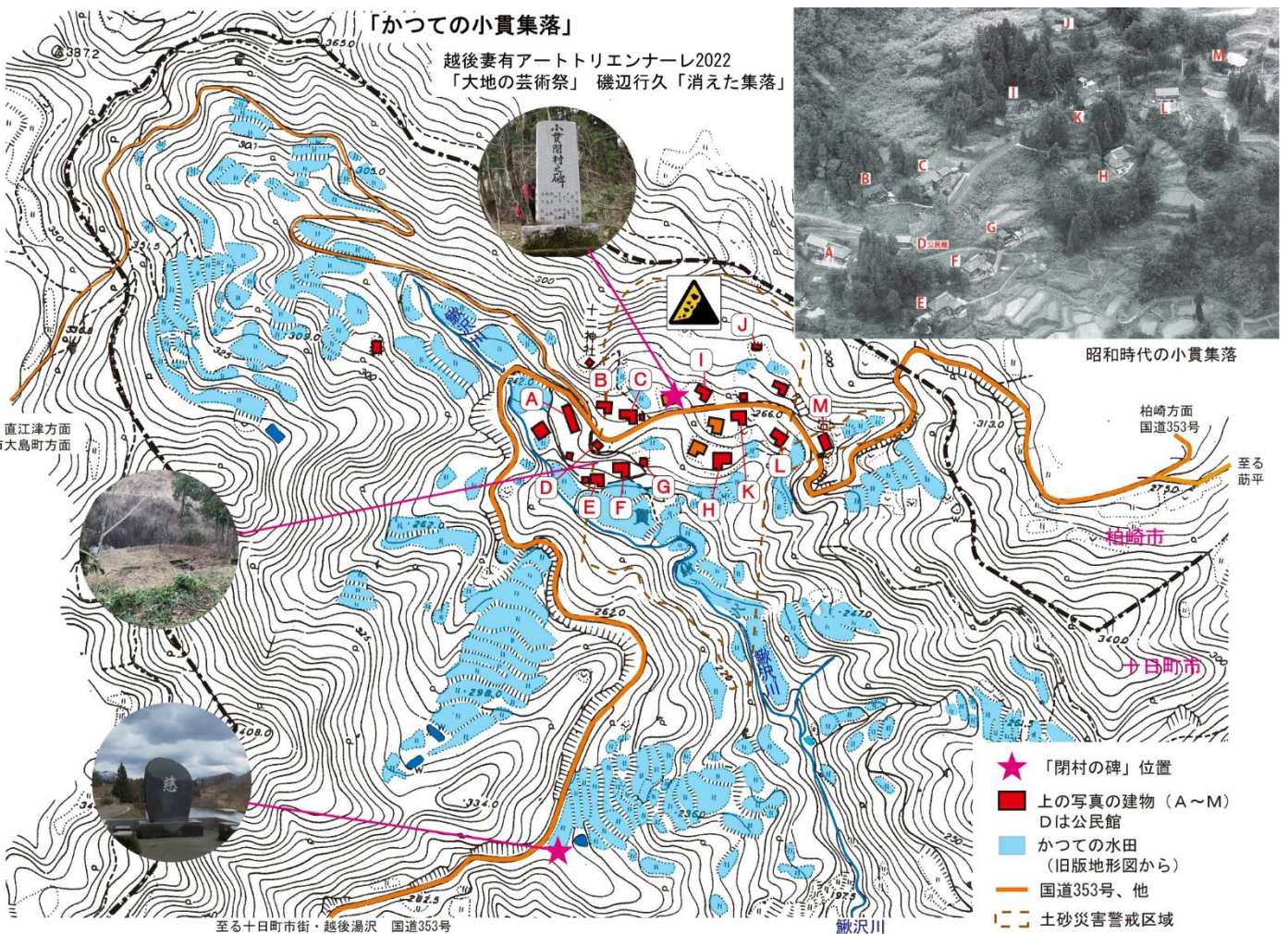
「閉村の碑」に刻まれた碑文からもこの集落が置かれてきた自然環境的、地域社会的、文化的、経済的な状況を知ることができます。

さらに、集落の東端には「慈」と刻まれた碑があり、「雄大な自然や豊かな緑の大地、みんなの笑顔と思いやりで先人が拓いたこの土地を守ってください」の「ねがい」といったたった壹文字の碑文として遺されています。

こうしたことからからもこの集落が置かれてきた数百年の長きにわたる歴史・文化の状況と集落として立ち行かなくなった理由を垣間見ることができます。

今回のインスタレーションではこの二つの閉村の碑を中心として、集落のありし日の状況を、各家の家号を四寸柱に記号して設置、この地の最も特徴的と考えられる過酷な自然現象の一つとして冬季の北西の季節風の証しとして吹き流しを設置します。

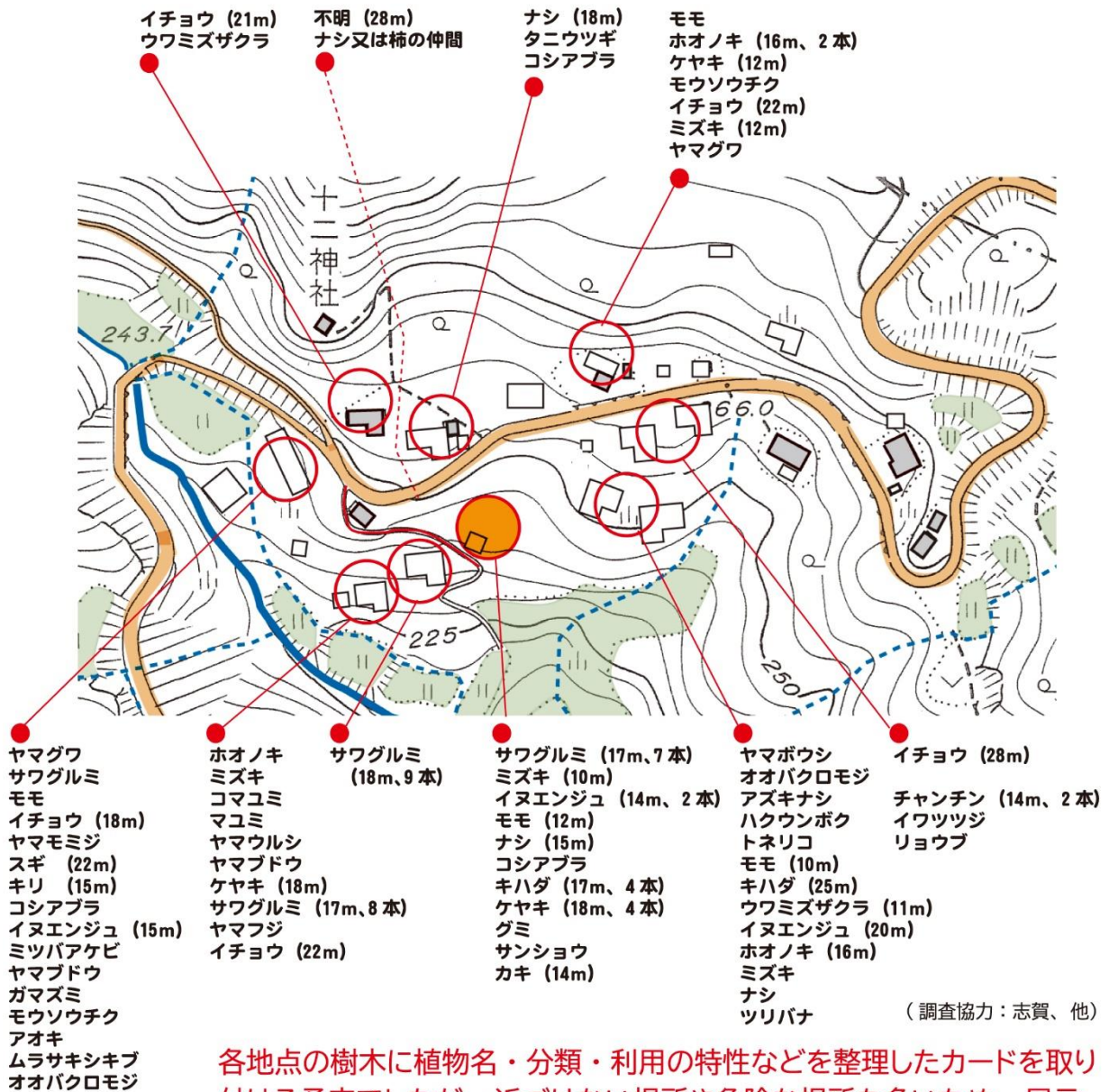
閉村の碑、屋号、吹き流し、鰻(かじか)沢に至る斜面地、狭小な圃場跡などのから「消えた集落」の過去四百年の歴史の経過を表現できればと考えています。



植物分布

松代小貫集落

住宅跡地及び周辺に見られる主な植物（樹木）を示しています。
植物名の後の（）内は、樹高10m以上の樹高（m）と周辺での本数を示しています。



各地点の樹木に植物名・分類・利用の特性などを整理したカードを取り付ける予定でしたが、近づけない場所や危険な場所も多いため、展示サイト周辺や道路・小径沿いに植物カードを設置してあります。

地域に生育する植物には、昔に植えられたり、生えてきたりした樹木をはじめ、人々の離村後に植えられた樹木、田畑や住宅跡の荒地に自然に生育してきた植物など、多種多様です。

こうした植物の状況を見ることにより、地域の環境や歴史、文化を知ることができます。ここでは、津南町にある志賀庭花園の志賀孝さんの協力により、小貫集落に生育している主な植物について現地調査しました。

これらの植物の分布(上図)と実際の樹木等に樹種名を記したカードを貼っています。また、これらの植物の特徴(昔からの利用のされかたなど)をカードにし、次ページ以降に示しています。地域を知る参考にして下さい。

01 イヌエンジュ（犬槐）

学名 *Maackia amurensis* var. *buergeri*

英名 Amur Macclie

科名 マメ科 落葉広葉・高木

分布 日本の山地に自生(北海道及び中部以北の本州に分布)

日本以外では朝鮮半島に分布

- 特徴
- 材として堅くて割れにくい。
 - 斧の柄、床柱、家具、彫刻、木工芸品、薪炭に利用。
 - 新芽は食べることができる。

02 ウワミズザクラ（上溝桜）

学名 *Padus grayana*

英名 Japanese bird cherry

科名 バラ科(ウワミズザクラ属) 落葉広葉、高木

分布 北海道南西部～九州に分布

- 特徴
- 直径6～8ミリほどの小さな白い花が長さ10センチ前後の穂状に集まって咲く。花鑑賞、庭木として公園や緑地に使われる。
 - 熟した果実は甘くて美味しく、野生動物、野鳥の食餌となる。
 - 若い実を塩漬けにしたものは「杏仁香(アンニンゴ)」と呼ばれ、焼き物の前付けや酒の肴に使用。果実酒は杏仁香酒と呼ばれる。

03 キハダ（黄檗、黄膚など）

学名 *Phellodendron amurense*

英名 Amur Corktree

科名 ミカン科(キハダ属) 落葉広葉、高木

分布 北海道から九州までの広い範囲に分布

日本のほか中国、ロシアの国境(ウスリー、アムール)、朝鮮半島に分布

- 特徴
- 幹の下にある皮(内皮)が黄色いことからキハダと命名。
 - 樹皮が漢方薬の材料、江戸時代は重要な薬用樹として保護。
 - 黄色の内皮は染料として古来より利用、和紙を染めた黄檗紙は防虫効果があり戸籍、写本、写経に使われる。
 - ケヤキに似た色味や光沢があり、建材、家具材、工芸品等に利用。

04 サワグルミ（沢胡桃）【別名:カワグルミ、フジグルミ】

学名 *Pterocarya rhoifolia*

英名 Japanese wingnut

科名 クルミ科(サワグルミ属) 落葉広葉、高木

分布 北海道南部から九州の各地に分布、特に東北に多い。

日本以外では中国の山東省に自生

- 特徴
- 実食用にならない。
 - 老木の樹皮は暗灰色で自然に剥がれ落ちる。その美しさから「寿光皮」と称され、工芸品や細工物に使われる。
 - 材は白く柔軟で強度があるため、マッチの軸木やキリの代用として下駄に使われる。

05 チャンチン（香椿）【地域名 トウキョウダ】

学名 *Toona sinensis*

英名 Chinese cedar

科名 センダン科(チャンチン属) 落葉広葉、高木

分布 中国を原産とするセンダン科の落葉樹

江戸時代以前に渡来

- 特徴
- 地域では、かつて稲を掛けるはぜ木に使用。葉が落ちる冬季は電柱のようにすっきりとした姿形になること、枝の張り出しが少ない。
 - 木全体に特有の香りがあり、枝を折ると独特な匂いがする。樹皮は灰色で経年と共に縦に薄く剥離する。
 - 材は硬質で耐水性があり、赤みを帯びるため、内装材や家具、楽器、寄木細工等に使われる。

06 ハクウンボク（白雲木）

学名 *Styrax obassia*

英名 Fragrant snowbell

科名 エゴノキ科(エゴノキ属) 落葉広葉、高木

分布 沖縄を除く日本全土の山地に分布

朝鮮半島や中国にも分布

- 特徴
- 秋の黄葉が格別に美しい。
 - 種子には油脂が多く、この油で蠟燭を作ることができる。
 - 新枝の表皮がはがれやすく、一見粗そうな材質に見えるが緻密。コケシや将棋の駒などの材料となる。

07 ホオノキ（朴の木、厚朴）

学名 *Magnolia obovata*

英名 Japanese white bark magnolia

科名 モクレン科(ホオノキ属) 落葉広葉、高木

分布 北海道から九州に分布

古名はホオガシワで日本特産とされることもあるが中国にも分布

- 特徴
- 花、葉、実のすべてが大型。果実は食用にはならない。
 - 葉は大きくホオバと呼ばれ、若葉は食べ物を包むのに使われた。香りが良く、殺菌作用もある。
 - 成長が早く材はやや柔らかめだが、質が均一で加工しやすく軽量で、建具や引出、まな板、額縁、版木、彫刻、下駄などに幅広く使われる。

08 ミズキ（水木）【地域名:ダンゴギ】 ■コケシの材料

学名 *Cornus controversa*

英名 Giant dogwood

科名 ミズキ科(ミズキ属) 落葉広葉、高木

分布 北海道から九州の各地に分布

日本以外ではアジア大陸東部やヒマラヤ地方に見られる。

- 特徴
- 根から水を吸い上げる力が強く、春先に枝を切ると水が滴り落ちることからミズキ（水木）と呼ばれる。
 - 枝先に、白・赤の丸いダンゴを指して、正月に縁起物として飾る。
 - 材が白くコケシの材料
 - 成長は早いが材は緻密で加工しやすい。年輪が目立たない青っぽい白一色になる。

09 ヤマモミジ (山紅葉)

学名 *Acer palmatum* var. *matsumurae*

英名 Yama-momiji (Japanese Maple)

科名 ムクロジ科(カエデ属) 落葉広葉、高木

分布 北海道と本州の北中部(青森県から島根県)に分布、日本海側の山地に多い。太平洋側に分布するイロハモミジ、オオモミジと共に日本のカエデを代表する樹種

- 特徴
- 新緑や紅葉の美しさを観賞するため庭木や盆栽として使われる。
 - 雌雄同株で、葉が展開する直前の5月頃に雄花と両性花を咲かせる。
 - 樹皮は緑がかった褐色でツルツルしている、樹齢を重ねると浅く縦に裂ける。
 - 材は建築や器具に使われるが、材木としての流通は稀。

28 トネリコ 【別名:サトネリコ、タモノキ、タモ】

学名 *Fraxinus japonica* Blume

英名 Japanese Ash

科名 モクセイ科(トネリコ属) 落葉広葉、高木

分布 本州中部以北に分布

落葉樹で日本のトネリコで、亜熱帯原産のシマトネリコは常緑樹で異なる。

- 特徴
- 名は、この木の皮を煮て得たニカワを墨と共に練って写経に使ったことに由来する(共に練る濃)。枝についたイボタロウ(あるいはカイガラムシ)の分泌物を戸の溝に塗って滑りをよくしたため「戸に塗る粉」との説もある。
 - 樹皮は「秦皮(しんぴ)」といい、昔から眼の病気や痛風に効果があるとされる。
 - 材は緻密かつ柔軟で、アオダモなどとともに野球用バットや農具に使われる。

10 イチョウ (銀杏) 【別名:銀杏】 ●果樹

学名 *Ginkgo biloba*

英名 Ginkgo

科名 イチョウ科(イチョウ属) 落葉広葉(裸子植物)、高木

分布 約2億年前の中生代ジュラ紀に栄え、現在まで種を絶やさずに続く歴史の長い木。日本のイチョウは中国南東部で生き残っていたものが朝鮮半島経緯で渡来したとされる。

- 特徴
- 名は、中国名のイーチャオ(鴨脚=葉の形がカモの足に似ることから)が転訛
 - ギンナンは実でなく種子。多肉質の外種皮が悪臭、硬い殻の中の胚乳が食用。
 - 葉が燃えにくく、幹や枝も耐火性があり、「火伏の木」として街路樹等に多用。
 - 材はスギよりも硬く、クリーム色の綺麗な仕上がりになり、まな板や碁盤、将棋盤に使われるが、材としての耐久性はやや乏しい、また、流通はほぼない。

11 カキノキ (柿) 【別名:カキ】 ●果樹

学名 *Ginkgo biloba*

英名 Ginkgo

科名 カキノキ科(カキノキ属) 落葉広葉、中高木

分布 中国や日本を主とする東洋特有の果樹。日本では本州西部から九州の山地を原産。東日本は渋柿、関東以西は日本独自の甘柿が多い。

- 特徴
- カロチンやビタミンが豊富な実は食用となる。若葉はビタミンCを多く含み、殺菌作用もあり「柿の葉茶」や「柿の葉寿司」に使われる。
 - 渋柿を絞って発酵、熟成させたものは「柿渋」と呼ばれ、昔から防腐、防水用の塗料として使われてきた。
 - 語源は、「赤木」(赤い実がなる木の意)などが転訛した説などがある。
 - 全般にカキノキの木は折れやすいが、材は硬く、「硬き木」が語源という説もある。

12 ナシ（梨）【別名:アリノキ、アリノミ】 ●果樹

学名 *Pyrus perotina* Rehder

英名 Japanese pear tree

科名 バラ科(ナシ属) 落葉広葉、高木

分布 ヤマナシを起源とする日本ナシ(和ナシ)

他にヨーロッパ中南部起源の洋ナシ、中国北部起源の中国ナシ(カラナシ)がある

- 特徴
- 夏の果実は水気が多くて香りが良い。果肉に「石細胞」が多く独特の舌触り。
 - 果実は直径5～10センチの球形や楕円形で、外皮には細かな斑点がある。
 - 果実の色は、緑色の強いアオナシ(「二十世紀」「八雲」などの品種)、褐色の強いアカナシ(「香水」「豊水」「新高」「新興」などの品種)に大別される。
 - 別名のアリノキ、アリノミは、ナシという音が「無し」に通じることを嫌ったもの。

15 モモ（桃） ●果樹

学名 *Amygdalus persica* L.

英名 Peach

科名 バラ科(モモ属) 落葉広葉、小高木

分布 原産地は中国西北部の黄河上流高山地帯。食用・観賞用として世界各地で栽培。

日本へは古い時代に中国から渡来したものとされる。

- 特徴
- 春に五弁または多重弁の花を咲かせ、夏に水分が多く甘い球形の果実を実らせる。実は球形で縦に割れているような筋が1本あるのが特徴的。皮の表面には毛茸(もうじ)が生えている。
 - 未成熟な果実や種子にはアミグダリンという青酸配糖体が含まれる。
 - 果肉は水分を多く含み柔らかい。水分や糖分、カリウムなどを多く含む。

22 グミ（茱萸、胡頹子） ●果樹

学名 *Elaeagnus*

英名 Silverberry, Oleaster

科名 グミ科(グミ属) 落葉広葉、小高木

分布 日本には約15種が自生。常緑種と落葉種のふたつの種類があり、落葉性は耐寒性が強く、常緑性は耐寒性に弱く、耐陰性が強い。

- 特徴
- 小さくてかわいらしい花や赤い実は観賞用として、また、実は食用になる。
 - 果実は楕円形で赤く熟し、渋みと酸味、かすかな甘味があって食べられる。
 - 形はサクランボに似る。リコピンを多く含む。
 - グミの品種は多く、アジアからヨーロッパ、北アメリカに60種ほどが自生。多くの種類で果実は食用になる。

13 キリ（桐） ◆家具材

学名 *Paulownia tomentosa*

英名 Paulownia Empress tree

科名 キリ科(属) 落葉広葉、高木

分布 中国中部が原産地。日本へ渡来時期は不詳、北海道南部から九州の各地に分布。

材木の有用樹として古くから植栽され、種子が飛散して野生化したものがある。

- 特徴
- 国産材の中で最も軽量で柔軟で扱いやすく、真っすぐに狂いがなく、乳白色の木目が美しい。材は耐湿性が高く、建具、長持、小箱、下駄、琴や琵琶などの楽器、羽子板、人形、仮面などにも使われる。
 - 木の樹皮は灰褐色で、樹齢を重ねると表面にポツポツと模様が入る。
 - 淡い紫色の花が円錐状に集まって、高いところに咲く。強風で散りやすい。

16 ケヤキ（欒）【別名:ツキノキ(槻木)】 ■建築材

学名 *Zelkova serrata*

英名 *Zelkova*

科名 ニレ科(ケヤキ属) 落葉広葉、高木

分布 北海道西南部、本州、四国及び九州の山地や丘陵に自生
日本を代表する巨木の一つだが、朝鮮半島や中国にも自生

特徴

- 古代は、強い木を意味する槻(ツキ)あるいは槻木(ツキノキ)と呼ばれていた。
- ケヤキは「けやけき木」で、他の木より一際目立って樹形が端整であることや、木目が美しいことを意味する。
- 耐久性や耐湿性が高いため、箆笥、和太鼓などの道具や楽器に使われるほか、神社仏閣の柱にも使われる。

17 スギ（杉） ■建築材

学名 *Cryptomeria japonica*

英名 *Japanese cedar*

科名 ヒノキ科(旧スギ科/スギ属) 常緑針葉、高木

分布 青森県及び秋田県の県境から屋久島まで、日本全国に広く分布する常緑樹
日本の樹木の中では最も広い面積に植林(戦後大量に植林され放置された)

特徴

- 成長の早さや材の軽さ、加工のしやすさ、まっすぐに通る木目の美しさにより建築材として有用視される。スギは日本で最も高くなる木でもある。
- 天に向かって真っすぐに伸びる様が、神の依り代と考えられ神社仏閣に多い。
- 樹皮は赤褐色や褐色で縦に裂けて薄く剥がれ、造園用資材や屋根を葺くのに使われる。材は土木、建築、家具、器具、船舶、箸、酒・味噌・醤油などの樽に使われる。

14 アオキ（青木）

学名 *Aucuba japonica var. japonica*

英名 *Japanese Aucuba*

科名 ミズキ科(アオキ属) 常緑広葉、低木

分布 北海道南部から沖縄まで日本各地に広く分布する常緑低木
海岸近くの樹林に多いが、身近な雑木林の林内にも自生

特徴

- 花の少ない初冬に実をつける。実は始めは緑色だが、鮮やかな赤色に色づく
- 果実は直径2センチ程度と大きくて目立ち、ヒヨドリなどが好んで食べる。
- 葉を乾燥させるとたちまち黒くなるが、これには抗菌作用があり、葉を炙って人工的に黒変させたものを火傷、しもやけ、凍傷などに症状を緩和する効果や、煎じた葉は下剤になると言われている。

18 アズキナシ（小豆梨）【地域名:ヤマナシ】

学名 *Aria alnifolia*

英名 *Mountain Ash Azukinashi tree*

科名 バラ科(アズキナシ属) 落葉広葉、低木

分布 北海道から九州の広い範囲に分布、他の落葉樹と共に林内に自生

特徴

- 10~11月に熟す赤い実はアズキ大で、ナシと同じような「石細胞」を持つことからアズキナシと名付けられた。ごく赤く熟した実を食べて、食感がジャリジャリしているのでヤマナシと呼んでいる。
- 樹皮は染料に、材は建築、家具、道具の柄、器具などに用いられる。
- 緻密で割れにくく木目も美しい良材だが、流通量が少ない。
- 端整な樹形、清楚な花、秋にできる赤い果実は観賞に良く、雑木の庭に使われる。

19 イワツツジ (岩躑躅、岩つつじ)

学名 *Vaccinium praestans* Lamb.

英名 -

科名 ツツジ科(スノキ属) 落葉広葉、低木

分布 本州の高山、北海道、千島列島、ウスリー地方に分布
地表やコケの這う岩や倒木上に生え、やや安定した立地を好む。

- 特徴
- 一見、多年草のような落葉小低木。
 - 地下茎から茎が立ち上がって3枚程度の葉を展開する。茎はあまり高くはならず10cm程度、地下茎がよく伸びて広がる。
 - 夏に小型の花を咲かせ、実は秋に赤熟して美しい。あまりおいしくないが食べることができる。

20 オオバクロモジ【別名:クロモジ(黒文字)】

学名 *Lindera umbellata*

英名 Spicebush

科名 クスノキ科(クロモジ属) 落葉広葉、低木

分布 関東地方以西の本州、四国(瀬戸内海側)及び九州の雑木林に見られる。
オオバクロモジは北海道南西部及び東北地方に分布する葉の大きい品種を言う。

- 特徴
- 樹皮や葉には芳香成分が含まれ、柑橘系に似た特有の香りがある。樹皮を残した材で作られた爪楊枝は高級品として茶席などで使われる。
 - 材が白くて美しく、緻密かつ均質で加工しやすいなど細工物などに使われる。
 - 実は黒く熟し、果肉にも脂分が多い。果実や枝葉から採取される「クロモジ油」には抗菌や鎮静に効果があり、化粧品、香料、入浴剤に使われる。

21 ガマズミ (莢蒾) ★花鑑賞

学名 *Viburnum dilatatum*

英名 Japanese bush cranberry

科名 レンブクソウ科(ガマズミ属) 落葉広葉、低木

分布 北海道南西部、本州、四国及び九州に分布
漢字表記の「莢蒾(きょうめい)」は漢語で、中国や朝鮮半島にも自生

- 特徴
- 全国に広く分布する植物で、イヨゾメ、カメガラ、シモフリ、シモフリグミ、スズミ、ソゾミ、ヨシヅミ、ヨツズミ、ヨンゾメなど地方名が多い。
 - 果実は直径6ミリほどの楕円形で、酸味が強いが、晩秋に甘味が増し食べることができる。大根などの漬物を赤く染める着色料や果実酒としても使われる。

23 コシアブラ (漉し油)

学名 *Chengiopanax sciadophylloides*

英名 Koshi-abura tree

科名 ウコギ科(コシアブラ属) 落葉広葉、低木

分布 沖縄を除く日本全国に分布
名前は、古代にこの樹脂をろ過して(漉して)油を採取したことにちなむ。

- 特徴
- 樹脂は、平安時代にウルシが普及するまでサビ止めの塗料「金漆(ゴンゼツ)」の原料として珍重された。
 - 香りのよい新芽は代表的な山菜で、天婦羅などにして食される。
 - 樹皮は灰白色で、皮目と呼ばれる細かな点々があり、樹齢を重ねると樹皮が剥離して黒光りする。材は箸や爪楊枝、マッチの軸に使われる。

24 コマユミ (小真弓、小檀)

学名 *Euonymus alatus form striatus*

英名 Komayumi tree

科名 ニシキギ科(ニシキギ属) 落葉広葉、低木

分布 北海道から九州までの各地に分布

日本のほか中国やアジア東北部にも分布

- 特徴
- 葉、果実及び樹高がマユミよりも小さいため、コマユミと名付けられた。
 - 8月上旬から紅葉し、色合いも鮮明で、モミジに次いで美しい紅葉樹とされる。
 - 果実は1~2個程度。熟すと裂開するが、長い期間にわたって枝に残る。アルカロイドのエボニンという毒性物質を含んでおり食用にはならない。

25 サンショウ (山椒) 【別名:ハジカミ】 ●葉や実を食用

学名 *Zanthoxylum piperitum*

英名 Japanese pepper tree

科名 ミカン科(サンショウ属) 落葉広葉、低木

分布 北海道中南部~九州に分布

古くから日本人に親しまれるが、朝鮮半島南部及び中国にも自生

- 特徴
- 種子が香辛料で、「山にある小さな辛い実」としてサンショウと名付けられた。
 - 芳香のある若葉も「木の芽」として、田楽、吸い物、和え物、味噌、佃煮などの和食に添え物として使われる。若葉は芳香が強く、触れるだけで香りが移る。
 - 成熟した果実と果皮を乾燥させたものは「干山椒」、それを砕いたものが「粉山椒」となる。サンショオールという毒性が含まれており、食べ過ぎは危険。

26 タニウツギ (谷空木) 【別名:ベニウツギ他】 ★花鑑賞

学名 *Weigela hortensis*

英名 Japanese weigela

科名 スイカズラ科(タニウツギ属) 落葉広葉、低木

分布 北海道西部から山陰地方の日本海側を中心に分布

タニウツギ属は北アメリカ、中国、朝鮮半島及び日本などに全12種ほどあるが、そのうち10種類は日本に自生

- 特徴
- 初夏に咲く花は色鮮やかで、満開時には枝が垂れるほどに咲き誇る。
 - 環境への適応力が高く、管理の手間もかからないため、公園等に植栽される。
 - 開花が田植えの頃であるためタウエバナ、花色が火事を連想させるとしてカジバナという別名がある。

27 ツリバナ (吊り花) ★花鑑賞

学名 *Euonymus oxyphyllus*

英名 Korean spindletree

科名 ニシキギ科(ニシキギ属) 落葉広葉、低木

分布 北海道から九州までの各地に分布

山地や丘陵の林内及び林縁で普通に見られる。

- 特徴
- 開花は5~6月、黄緑色の花を咲かせる。小さな五弁花で、小枝の先端から垂れ下がる様子には話題性があり、これにちなんでツリバナと呼ばれる。
 - 果実はホオズキと似たような味だが食用にならず、ヒヨドリなど一部の野鳥以外はこれを採食しない。
 - 秋の紅葉も美しいが、地方によっては赤くならず黄色に黄葉する。

29 マユミ (真弓、檀) ★花鑑賞

学名 *Euonymus sieboldianus*

英名 Spindle tree

科名 ニシキギ科(ニシキギ木属) 落葉広葉、低木

分布 沖縄を除く日本全国に分布

日本以外でも朝鮮半島や中国本土及び台湾に見られる。

- 特徴
- 枝は柔軟性があり、よくしなる。弓(丸木弓)の材になったことがある。
 - 山地の林縁に自生するが、紅葉や個性的な果実を鑑賞するため、古くから庭木あるいは盆栽として親しまれてきた。
 - 葉には個体差や変異が多い。秋に黄色から紅色になるが、地域によっては橙色、黄色にとどまる。
 - 若芽をコノメ(木の芽)として食用することがある。種子には毒性がある。

30 ムラサキシキブ (紫式部) ★花鑑賞

学名 *Callicarpa japonica*

英名 Japanese beautyberry

科名 シソ科・クマツヅラ科(ムラサキシキブ属) 落葉広葉、低木

分布 北海道北東部を除く日本全国の広い範囲に分布

山地の林、道路わきの藪などにも普通に見られる。

- 特徴
- 元来はムラサキシキミ(紫色の実ができるシキミ)と呼ばれていた。
 - 初夏に花が咲く。花は黄色い葯と薄紫色の花弁が美しく、微かな香りがある。
 - 晩秋に葉が黄色く色づき、ムラサキ色の実とのコントラストが美しい。
 - 幹は丈夫かつ、まっすぐであるため昔から杖や道具の柄などに使われてきた。

31 ヤマウルシ (山漆)

学名 *Toxicodendron trichocarpum*

英名 Wild lacquer tree

科名 ウルシ科(ウルシ属) 落葉広葉、低木

分布 沖縄を除く日本全国に自生

日本以外では中国や朝鮮半島に自生

- 特徴
- ウルシとは別の木。似た枝葉を持ち、山に生じることからヤマウルシと命名
 - 漆塗りに使われることはないが、ウルシと同様、木全体にウルシオールという成分が含まれ、枝葉に触れるとかぶれる。
 - 葉は秋に赤やオレンジに染まる。古い時代には黄褐色の染料として重用された。

32 ヤマグワ (山桑) 【別名:クワ】 ◎かつて蚕の食用

学名 *Morus australis*

英名 Chinese mulberry

科名 クワ科(クワ属) 落葉広葉、低木

分布 北海道から九州まで日本全国の丘陵や山地に広く自生

日本以外でも中国や朝鮮半島に分布

- 特徴
- 狭義には、北陸から東北で広く栽培されたクワがヤマグワで耐寒性がある。
 - かつては中国産のマグワと共に養蚕のための重要な飼料として栽培された。
 - 「蚕が食う葉」から「クワ」と呼ばれる。
 - 未熟な果実は硬くて酸っぱいが、熟すと柔らかく甘みがあり食べられた。
 - 材は硬質で耐久性が高い。色味が良く、「空(もく)」と呼ばれる模様が入りやすく、床柱、框(かまち)、茶道具、家具、仏壇などの造作の化粧に使われた。

33 ヤマボウシ（山法師）【地域名:イツキ】★花鑑賞

学名 *Cornus kousa* ssp. *kousa*

英名 Japanese Dogwood / Kousa Tree / Japanese Strawberry Tree

科名 ミズキ科(ミズキ属) 落葉広葉、低木

分布 東北南部から九州に分布、低山の林地や草原に自生

原産は日本、日本からヨーロッパへ渡り、現在では多くの国で親しまれている。

- 特徴
- 初夏に咲く清楚な花や晩夏に熟す赤い果実の観賞など、公園や街路に植栽。
 - ハナミズキはヤマボウシの近隣種。短い枝の先に伸びる長さ10センチほどの花びらのような「総苞片」の中心に淡い黄色の30~40輪の小花がある。
 - 果実は熟すと果肉は柔らかく甘く、生食、果実酒、ジュース等として飲食可能。
 - 樹皮や枝葉を煮だしたものは黄茶色や黒茶色の染料となる。

34 リョウブ（令法）【別名:ハタツモリ】

学名 *Clethra barbinervis*

英名 Japanese clethra

科名 リョウブ科(リョウブ属) 落葉広葉、低木

分布 北海道南部から九州までの山間に見られる。

日本以外では韓国の済州島に自生

- 特徴
- 芽吹いてすぐの若葉は食用となる。
 - 開花は6月から8月で、白い小花が長さ10~20センチの穂状になって咲く。
 - 花の後に直径3~4ミリほどの果実が開花期と同じような穂状につく。
 - 材は緻密で美しく、稀にろくろ細工や道具の柄、樹皮を生かした床柱として使われる。

35 ミツバアケビ（三葉木通）●新芽を木の芽と称して食用

学名 *Akebia trifoliata*

英名 Three-leaf akebia

科名 アケビ科(アケビ属) 落葉広葉、ツル植物

分布 北海道、本州、四国、九州の丘陵地や山地の林縁部に普通に見られる。

日本以外では中国に分布

- 特徴
- 果実は長楕円形の液果。10月に果皮が紫色に熟し、縦に裂ける。
 - 果肉は白色で、黒色の多数の種子を含む。甘く食べられる。
 - 新芽は「木の芽」として、肉厚の中果皮も天ぷらなどの料理で食べられる。
 - つるは弾力があり丈夫でしなやかなため、籠編みの材として使われる。

36 ヤマフジ（山藤）★花鑑賞

学名 *Wisteria brachybotrys*

英名

科名 マメ科(フジ属) ツル植物

分布 日本固有種で、本州中部地方以西・四国・九州(暖帯)の山野に自生

- 特徴
- つる性の植物で、他の木に巻きついて大きく成長する。
 - 蔓は上から見ると左回り(左巻き)で、フジ(ノダフジ)とは逆である。
 - 花期は4-5月で、花は淡紫色、観賞用に栽培されることもある。

37 ヤマブドウ (山葡萄)

学名 *Vitis coignetiae*

英名 *Crimson glory vine*

科名 ブドウ科(ブドウ属) ツル植物

分布 冷涼地に自生する野生種で、樺太、南千島、日本列島(うち、北海道、本州、四国)、及び鬱陵島(韓国)に分布

特徴

- 果実は球形で秋に熟し黒紫色になる。甘酸っぱく、生食できる。ジャム、ジュース、シロップ漬けなどに利用、ドライフルーツとしても食される。
- 近年、ワインの原料としても注目されている。
- 樹皮(蔓)は、日本では籠を始めとする収納用品などの材料として古くから利用。粘性の高い強靱な繊維からなり、加工しないままでは極めて使いづらいため、なめし加工を施すことで利用される。

38 モウソウチク (孟宗竹) ●タケノコ食用

学名 *Phyllostachys heterocycla* f. *pubescens*

英名 *Moso bamboo*

科名 イネ科(マダケ属)

分布 北海道南部以南に分布する代表的なタケ
原産地は中国江南地方

特徴

- タケノコが食用に向くこと、棹が加工しやすいことなどから各地に広まった。
- タケノコは日に当たるとエグ味が出るため、地面から顔を出す寸前のものを早朝に収穫する必要がある。
- 肉厚の悍はしなやかで加工しやすく、竹垣や民芸品に使われる。成長が早いため材は粗く、マダケより耐久性が落ちるため籠などの編物細工には不向き。
- 繁殖力が高く、既存の森林へ侵入して他の樹木を枯死させるなど問題も多い。